

H29年度自己評価表

青翔開智中学校・高等学校

中長期目標(学校ビジョン)	今年度の重点目標
「探究」型学習による発展的な学び実践。それを補完するためICT教育および図書教育充実を図る。 学校生活におけるあらゆる場面における「探究」的な姿勢を通じ、国際社会に通用するリーダーシップを発揮できる人間を育成する。	1、教科・科目として「探究」授業のみならず、全教科指導・学習指導および学校生活全般における「探究」型学習・「探究」的姿勢実践、創造と体系化。 2、上記を円滑かつ効果的に推進するためICT教育および図書教育実践と体系化。 3、生徒と教員、保護者と連携を密にし、ともに学校を創造する。 4、国内だけでなく世界を視野にいれた進路指導をおこない自己の進路実現を目指す。

年度当初				評価結果 (年度末)	
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価基準	評価	自己評価および次年度の主な課題
重点目標1に対応	<p>探究学習</p> <p>A. 課題解決手法の習得 自ら課題を発見・設定し、設定された課題を分析し、課題解決する方法を表現する一連の流れを習得する。表現した内容について外部から評価を得る。</p> <p>B. 探究型授業を通常授業へ浸透 さまざまな出来事に対して、生徒が自ら疑問を抱き、解決に向けて計画を立て実行できる力を養う。</p>	<p>A. 青開学会(探究発表会)の開催。 ・課題発見と課題解決、分析、表現手法を習得し、青開学会にて外部発表をおこなう。</p> <p>B. 課題発見・解決型の授業を導入 ・発問を多く取り入れた双方向型授業、アクティブラーニングの実践。 ・生徒が主体的に学習し、授業参画できる授業づくりを目指す。</p>	<p>A. 青開学会(探究発表会)アンケートにおける、自己評価・他者評価の満足度を評価基準とする。</p> <p>B. 授業アンケート、教員アンケートによるアクティブラーニング、双方向型授業、グループワークの導入60%以上を目標とする。</p>	A.	
重点目標2に対応	<p>ICT教育</p> <p>A. ICT機器の高度な利活用を全校生徒が実践できる環境作り。</p> <p>B. 各授業における先進的なICT活用の実践。</p> <p>C. 生徒で作るICTルールを浸透させ、自律した活用を促す。</p> <p>D. ICTの利活用について保護者への理解を図る。</p>	<p>A. 教員とICT委員会が中心となりICT機器利用のガイドブックなどを作成し共有を図る。</p> <p>B. 各教員の取組みのガイドブックを作成し共有する。</p> <p>C. ICTルールの見直しをおこない全校生徒へ共有を図る。</p> <p>D. ICT授業参観日を実施し、学内でのICT利用状況について保護者の理解を図る。</p>	<p>A. 生徒アンケートを実施し達成度を評価基準とする。</p> <p>B. ガイドブックの発行の有無を評価基準とする。</p> <p>C. iPad利用ルールについてはICT委員会が主体となりルール改正の進捗状況の評価とする。</p> <p>D. ICT授業参観日の実施の有無を評価基準とする。</p>	A.	
重点目標2に対応	<p>図書教育</p> <p>A. 生徒、教職員の充実した読書生活の提供</p> <p>B. 通常授業へ図書館利用促進。そのための図書館と教務部、各教科会との連携体制の整備。</p>	<p>A. 学年ごとの目標冊数設定や必読書設定などによって貸出冊数増加と満足度向上を目指す。</p> <p>B. 各教科会に司書教諭、図書館司書が参画し、通常授業での図書利用をシラバスに落とし込む。</p>	<p>A. 年間貸出冊数と図書館に対する満足度アンケートの結果によって評価する。</p> <p>B. 生徒アンケートを実施し授業での図書利用数を評価基準とする。</p>	A.	
重点目標3に対応	<p>学校創造</p> <p>A. 生徒会組織の持続的運営</p> <p>B. 委員会活動の活発化</p> <p>C. 新校則の運営</p> <p>D. 保護者会(FTA)のワーキンググループ活動の活発化</p>	<p>A. 生徒会規約の理解と共有</p> <p>B. 各委員会で行事や活動を企画し、全校で共有をはかり実行する。</p> <p>C. 新校則について全校生徒・保護者から承認をもらい理解と共有を進める。</p> <p>D. FTAから参加の呼びかけを行い活動への参加者増を狙う</p>	<p>A. 学校アンケートを実施し理解度を評価基準とする</p> <p>B. 各委員会から企画を1件以上立ち上げ実行する。</p> <p>C. 学校アンケートを実施し理解度を評価基準とする</p> <p>D. 各家庭の参加率を評価基準とする</p>	A.	
重点目標4に対応	<p>グローバルキャリア教育・進路</p> <p>A. 英語や多様性に対する苦手意識を取り払いグローバルに向かう姿勢を整える。</p> <p>B. 英語4技能の育成を推進し英語をツールとして活用できる人材を育成する。</p> <p>C. 探究活動やグローバルキャリア教育をおし、将来のビジョンを明確にした進路を考える生徒を育成する。</p> <p>D. 選択した進路を実現する</p>	<p>A. 英語イベントの実施や海外留学生の受け入れを積極的におこない、海外と生徒の接点を多くもつ機会を作る。</p> <p>B-1. 外部試験合格に向けて各学年で目標級を決め、学校全体で取得にむけた意識付けをおこなう。</p> <p>B-2. 外部英語試験を推奨し、試験合格に向けて具体的な対策講座を学内で開講する。</p> <p>C. 探究部と進路部が連携し、探究学習の結果を活用した個別の進路指導をおこなう</p> <p>D. 予備校などの外部講師とも連携し学力向上を目指す。</p>	<p>A. イベントや行事への生徒の年間参加率を評価基準とする。</p> <p>B-1. 対策講座を受験した生徒の合格率を評価基準とする。</p> <p>B-2. 各学年で目標級を決め、その合格率を評価基準とする。</p> <p>C. 卒業時の進学アンケートにおける進路満足度を評価基準とする</p> <p>D. 卒業時の進学アンケートにおける進路実現度を評価基準とする</p>	A.	

評価基準 = A:ほぼ達成(8割以上) B:概ね達成(6割以上) C:変化の兆し(4割以上) D:不十分(4割未満)